

善徳寺の歴史

城端別院は真宗大谷派の寺院で寺号を善徳寺、山号を廓龍山と号す。蓮如上人が吉崎に於いて精力的な布教をされていた頃、本願寺第五代綽如上人の孫である蓮真は蓮如上人の願いにより現在の石川県と富山県の県境にある砂子坂に文明八年(1476)に一寺を建立し、蓮如上人を開基、自身を第2世とした。その後、布教活動とともに寺所を移転し、第5世祐勝の時代に現在の城端町に移転してきた。

第6世空勝は本願寺と織田信長との石山合戦に参戦し、あくまで本願寺を死守しようとする教如上人(東派1代目)に協力し尽力を尽くした。この事が後の東西分派で善徳寺が東派になる事や、江戸時代に於いて越中東方の最有力寺院としての地位や役割を果たす事になった。

また江戸時代には加賀藩前田家の庇護のもと、越中の触頭役(頭寺)を勤め隆盛し、時には加賀藩主の御子息を住職として迎えることもあった。

以来、開法の間として地域の方々に慕われ支えられて今日に至っている。

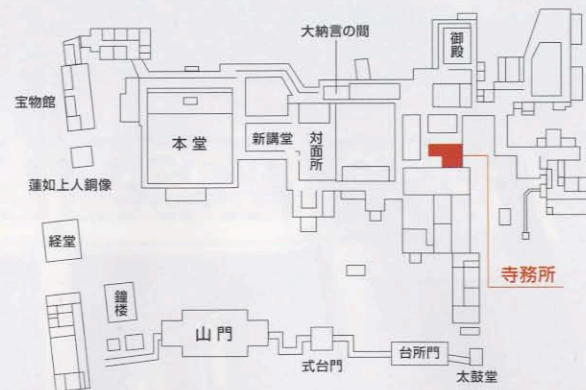


善徳寺

真宗大谷派 城端別院

文明八年(一四七六)本願寺第八代蓮如上人の促しにより開基され、以来数百年に亘り念仏の心を越中の人々と共に守り続けている。

境内案内図



アクセス



JR城端線「城端駅」より……… 徒歩約10分
 高速「福光インター」より……… 約10分



真宗大谷派 城端別院 善徳寺

〒939-1863 富山県南砺市城端405
 TEL 0763-62-0026 FAX 0763-62-3682
 URL <http://www.zentokuji.jp>

行事案内

毎日の行事

午前6時 晨朝勤行・法話(冬季時間変更あり)
 午後2時 常例勤行・法話

毎月の行事

18日 午後1時半 大谷婦人会定例講座
 20日 午前10時・午後2時 佛教講座

年間の行事

1月1日より1週間 修正会
 3月18日より1週間 春季彼岸会
 5月23日より25日迄 蓮如上人御忌法要
 7月22日より28日迄 虫干法会
 8月14日より16日迄 孟蘭盆会
 9月21日より1週間 秋季彼岸会
 11月10日より6日間 報恩講

法話は365日欠かす事無く行っております。
 いつでも気軽にお立ち寄り下さい。
 またの御参詣を城端別院一同心よりお待ちしております。



善徳寺山門、春の風景

文化12年建立した山門楼上の天井には狩野派絵師による天女と迦陵頻伽が描かれており、現在も色あせる事無く当時のまま残されている。2月14日の涅槃会には楼上でお勤めと法話があり、大勢の方がお念仏の言葉に耳を傾けている。



善徳寺山門天井画

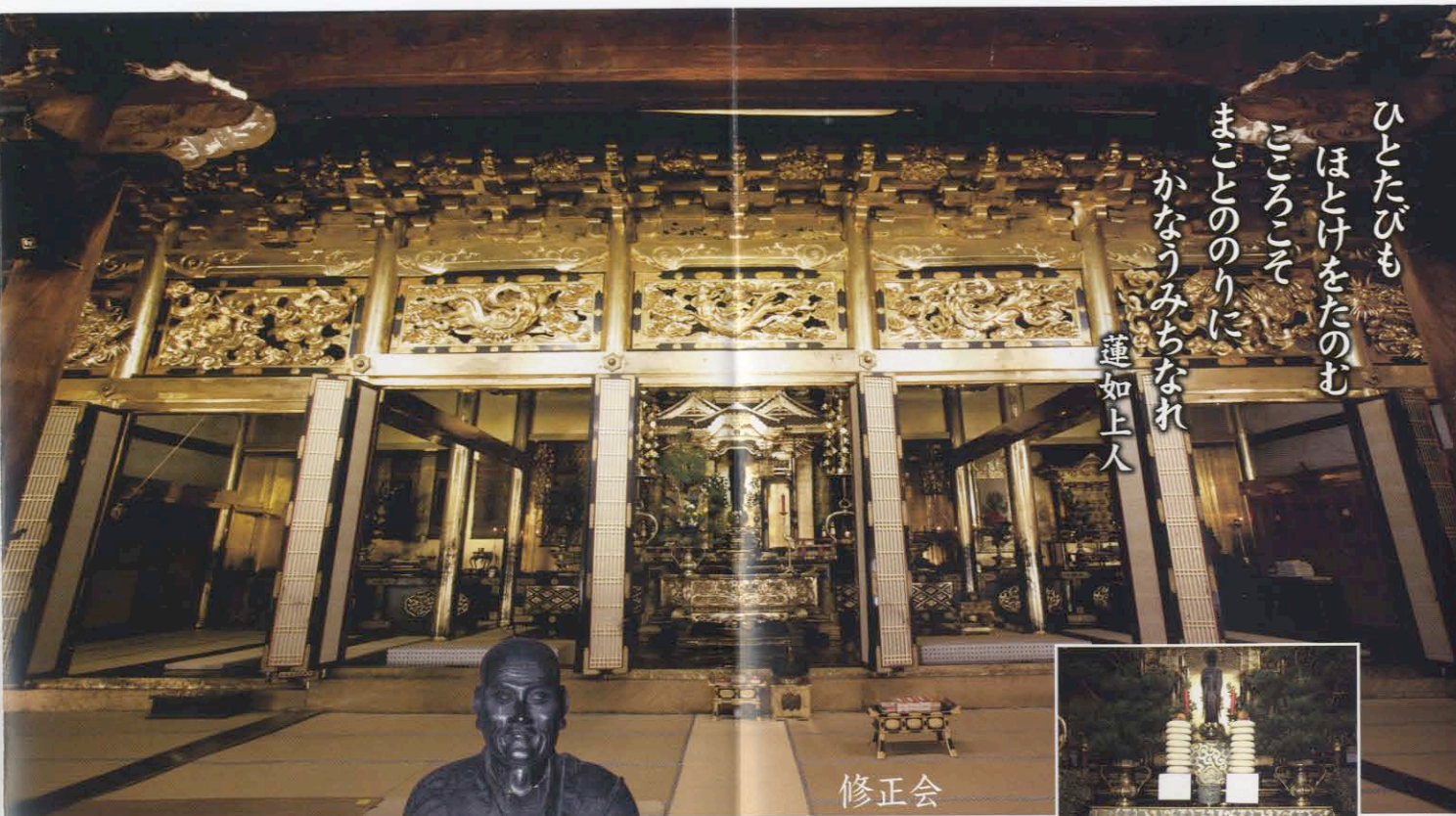
大納言の間

善徳寺の中で最も古く500年以上前のものではないかという説もある。過去には加賀藩2代目の藩主前田利長公が鷹狩の際この部屋に宿泊されたと古文書にある。



各所に見られる釘隠し

ウサギの形は前田家が江戸中期から後期にかけてよく使用したものである。釘隠しだけでも建てられた年代、改修工事があった年代、どのような権力者や大名と関係があったかという事がわかり、歴史に触れながら建物を見る事ができる。



ひとたびも
ほとけをたのむ
ころころそ
まことのりに
かなうみちなれ
蓮如上人

修正会

1月1日午前0時半より献杯式並びに修正会が本堂にて勤められる。献杯式の際には参詣に来られた門信徒に甘酒が振る舞われ、御本尊に新年のご挨拶をみんなでお勤めする。

空勝僧都 御木像

本願寺と織田信長が戦った石山合戦に状軍し、東西分派により東本願寺を開創した教如上人を支援するところが大きかった。城端別院には合戦の際、空勝のはたらきに感謝した教如上人が贈ったとされる軍配が伝えられている。この像は虫干法会に御開帳される。



ふるさとかるた
「となみ野紀行」より



蓮如上人の腰掛石

中河内集落で蓮如上人が腰掛けておられた石である。集落が何世代にも亘り仏法の教えと共に守り伝えてきたが、ダム建設で廃村となり、腰掛石と集落の厚き信仰心は蓮如上人開基である城端別院へ託された。又、安産の言い伝えもあり、妊婦には有難い腰掛石である。

晨朝勤行・法話 常例勤行・法話

善徳寺では毎朝6時(冬季時間変更あり)と午後2時から365日かかすことなくお勤めと御法話がある。城端町民以外県内外からも多くの門信徒が聴聞に訪れる。



報恩講

親鸞聖人の御命日11月28日にあわせて、毎年秋各寺院で行われる報恩講。城端別院でも毎年11月10日から15日にかけて5日間法要が勤められる。15日結願日中の前には本山より御鍵役御参修のもと、帰敬式も毎年行われ、多くの仏弟子誕生をお祝いしている。



所蔵宝物



狩野柳雪 作「桜遊楽園衝立」



九代治五右衛門雄蔵 作「彩漆鯉模様手付盃盆」



唐草苜蓿紋脇御膳



柳草悦 作「五行物」



唐草梅鉢紋袂箱



岩城信嘉 作「酒呑鬼図」



唐草梅鉢紋乗駕籠



貝合